



亀っ子だより

第6号

— 亀崎小学校 校長通信 — 2019年7月1日

もくもく掃除に取り組んでいます

5月の朝会で、松永先生が次のような話をしました。「人の心の中には3つの玉があります。それは、『がまん玉（がまんをする）』『見つけ玉（いろいろなことに気がつくことができる）』『しんせつ玉（困っている人がいたら進んで助ける）』です。この玉は、磨けば磨くほど美しくなっていきますが、その玉を磨くことができるのは自分だけです。掃除の時間、この三つの玉を自分自身で磨くために『もくもく掃除』というものに取り組みたいと思います。『がまん玉』を磨くためにおしゃべりをせず黙って掃除をしましょう。（おしゃべりをしたくてもがまんする）「見つけ玉」を磨くために自分から進んで掃除に取り組みましょう。（進んで汚れているところを見つけてきれいにする）「しんせつ玉」を磨くために掃除の時間いっぱい掃除をしましょう。（自分の掃除が終わったら、友達を手伝う）みなさんの心を育てられるように、もくもく掃除を頑張りましょう。」とてもよいお話だと感心して聞き入ってしまいました。

松永先生の話があつてから1ヶ月ほどがたちました。すべての掃除区域を見て回っているわけではありませんが、私の見ている範囲（職員室前廊下、玄関、岩石園など）では、子どもたちは黙々と時間いっぱい掃除に取り組んでいます。私は、きれいな環境の中できれいな心の持ち主が育つと思っています。環境は、人を育てます。亀崎小のどの子もきれいな心の持ち主に育つように、これからも子どもたちと一緒にもくもく掃除に取り組んでいきたいと思っています。

気持ちのよい3人組に会いました

土曜日に用事があつたので学校に来て、帰ろうと車に向かっているときのことで。ユニフォームを着た3人の男の子たちが歩いてきました。その子たちと次のようなやりとりをしました。「今日は、今から練習ですか？」「そうです」、「何時から、何時までですか？」「1時から4時までです」、「もうすぐ試合があるのですか？」「6月〇日に試合があります」、「頑張ってるね」「はい。頑張ります」短い言葉のやりとりでしたが、とてもはきはきと的確に質問に答えてくれました。私は、大人の質問に、子どもがきちんと答えられることは大切なことだと思っています。気持ちのよい3人組に出会えてうれしい気持ちで家に向かいました。

児童集会・ペアでスマイルで思うこと

14日（金）児童集会がありました。その冒頭で、6年生と1年生が校歌を披露してくれました。10日（月）朝会の後、6年生と1年生が体育館に残って、6年生のペアの1年生に校歌をマンツーマンで教える時間がありました。その成果をこの日に披露してくれたのです。教えてくれた6年生と一緒に歌う1年生の姿は、とても晴れ晴れとしているように見えました。一方、6年生のお兄さん、お姉さんは少し照れているようにも見えました。10日も14日も、1年生の子たちに優しい6年生の姿は微笑ましいものでした。

19日（水）にペアでスマイルがありました。ペアの子たちで放送から流れるクイズに答えたり、放送の合図で消しゴムを取り合ったりして、楽しい時間を過ごしまし

た。消しゴムを取り合うとき、低学年の子がとれるように、高学年の子が少し配慮してくれているのかなと思いつながりながら見ていました。ペアでスマイルの時間は、高学年が低学年のことを思いやっている姿が見られ、いつも微笑ましく思っています。

以前、ある幼稚園の園長先生から次のような話を聞きました。「その幼稚園ができた当初、年長児に小さい子の面倒を見てほしいと園長さんが頼んだら、『なんで俺たちがしなきゃいけないの？こっちだってしたいことがあるのに』と言ったそうです。嫌々、彼らに面倒を見てもらった子たちが年長になったとき、幼稚園から少し離れた畑で芋掘りをしたそうです。そのときの約束が、『掘りたいだけ掘ってよいけど、全部自分で持ち帰ること』だったそうです。幼稚園で園長先生が園児を迎えたとき、年長児は、皆、体重の半分もある芋を背負っているにもかかわらず、年少児の手をちゃんと引いて幼稚園に帰ってきたそうです。園長先生が、ある園児に理由を聞いてみると、『自分たちも、小さい頃、お兄さんお姉さんに手をつないで助けてもらったから、今度は僕たちの番です』と答えたそうです。」

この子のように、人は自分がしてもらったことを、次の人にもしてあげようとするものだと思っています。子どもは純粋ですからなおさらです。亀崎小の子たちを見ると、低学年の子たちにとっても優しい子が多いと思います。それは、先生方や児童会の子たちが低学年と高学年とが関わる機会を意図的に作ってきた成果だと思っています。そして、その時に優しくされた記憶が、きっと今の亀崎小の雰囲気を作っているのだと思います。だから継続することは大切なことであり、それが伝統というものになっていくのだと思います。私たちも、今行っていることが子どもたちの心に響き、その思いを受け継いで成長していつてくれるものと信じ、目の前の子どもたちに夢をのせて毎日関わっていきたいと思います。

「おっけい」「なますて」「なにくそだましい」

「なかよく 元気な子」「おっけい」「ナマステ」「とも」「えがお」「進んでする子 集中する子 大切にする子」「やさしい心 がんばるクラス みんななかよし にこにこ2組」「えんぴつもって さあ勉強 がんばって最後までやる 大きな声で あいさつ 発表」「何事にもチャレンジすれば成功だ」「おおかわちえ」「助け合う心 チャレンジする心 ギアチェンジする力」「責任 協力 実行」「なにくそだましい」「絆」「れいわ」「なにくそ」「安光」「なかよく げんきに がんばる子」これはいったい何でしょう。これは、各クラスに掲げられている学級訓です。子どもたちと一緒に考えたもの、担任の思いを言葉にしたものなど決め方は様々です。子どもたちは、1年間、毎日この言葉を見ながら生活していきます。この言葉が子どもの中に染みつき、ひょっとすると一生忘れられない言葉になるかもしれません。1学期も残すところ1ヶ月となりました。学級訓にどれだけ近づくことができたのかをふり返りながら、夏休みに入るまでの時間を大切にしてほしいと願っています。

♣ 子育てアラカルト ♣

[心に刻む詩]

あのねママ
ボク、どうして生まれてきたか 知ってる？
ボクね、
ママに会いたくて 生まれてきたんだよ

3歳の男の子 大介君が言ったことを、お母さんが書き取ったものだ。どうしたら、こんなことが言える子に育つのだろう。きっとお母さんが「大好き」サインを送り続けていたのだろう。「しつけ」とは、そういうものだ。「しつづける」ことが「しつけ」なのだ。とはいっても、続けることは容易なことではない。

(ある教育者のひとり言 より)